

市立

いちかわ

自然博物館だより

令和2年(2020年)

2-3月号

(通巻 186号)

2019年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

キタテハ

春先、枯れた草むらから飛び立ちます。
翅の裏側は枯れ草そっくりの色と模様
で、冬の間、じっと潜んでいました。

- P1 ☀️ いきもの写真館
キタテハ
- P2 / 3 ☀️ 明治時代の地形と土地利用
まちがある場所
- P4 ☀️ いちかわの植物 30年
イヌノフグリ・ヤマハンノキ

- P5 ☀️ 街かど自然探訪
宮久保・半島のような地形
- ☀️ くすのきのあるバス通りから
暮れに草取りをしたら
- P6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題
アメンボの飼育展示
- P7 ☀️ わたしの観察ノート
11月~12月の記録
- P8 ☀️ 行事案内

博物館だよりはホームページでもご覧いただけます。

明治時代の地形と土地利用

まちがある場所

今年度は明治時代の土地利用図を用いて、市域の地形を直感的に（生活実感のなかで）知っていただこうと記事を書きました。特に農地は、地形との結びつきが強くありました。今回は、まちがある場所に焦点を当ててみます。

まちがある場所

右ページの図は、1880（明治13）年の地形図のうち、市街地の部分を着色したものです。紙版では濃いグレー、web版では薄いピンクで表してあります。市域の大半で農業が営まれていた時代ですから、市街地の範囲は狭く、行徳街道や千葉街道といった街道沿いに集中しています（以下、市街地という言葉では時代的に違和感があるので、「まち」という言葉を用います）。

まちが立地する地形

まちが立地する場所は、地形的に見ると3つのグループに分けられます。市域の北部では台地上や斜面裾、中部では市川砂州上、南部では自然堤防や浜堤上です。これら3つの場所に共通するのは、周囲よりも相対的に土地が高い、ということです。大雨が降っても水没しにくい場所と言ってもいいかもしれません。順序で言うと、そういう場所がまず街道になり、そこにまちができていったのでしょう。

洪水ハザードマップとくらべる

市川市は「洪水ハザードマップ」を公表しています。このハザードマップに明治時代にまちだった場所を照らしてみると、そこが水に強い場所であったことがよくわかります。

洪水ハザードマップは3つの地図からなっています。市域に降った大雨による浸水範囲を示す「真間川水系洪水・内水氾濫ハ

ザードマップ」、群馬県など利根川上流域で降った大雨の影響で江戸川があふれた場合を想定している「江戸川洪水ハザードマップ」、東京湾の高潮により浸水する範囲を示す「東京湾高潮ハザードマップ」です（詳細な情報が書き込まれている洪水ハザードマップは残念ながらこの紙面では再現できません。市川市のウェブサイトでご覧になってください）。

明治時代にまちがあった場所を3つのハザードマップに照らしてみると、多くの場所が予想される浸水の範囲外に位置していました。もちろん洪水のタイプによっても違っていて、江戸川があふれる想定の場合では、江戸川に近い台地裾や、南部の自然堤防・浜堤は浸水の予想範囲内になっています。ただ、総じて水には強いということは読み取れました。

まちと災害

土木技術が発達していなかった時代、人は地形を生かして安全な場所にまちを作りました。まちの範囲が広がった現代では、まちは、土木技術を駆使したまちづくりによって守られています。ですが、まちの完成度が高まれば高まるほど、基本が見えなくなってもいます。

自然災害は、水害、風害、土砂崩れなどいずれも地形と密接に関連しています。明治時代の地形と土地利用を「基本」として知っておくことは、大切なことです。

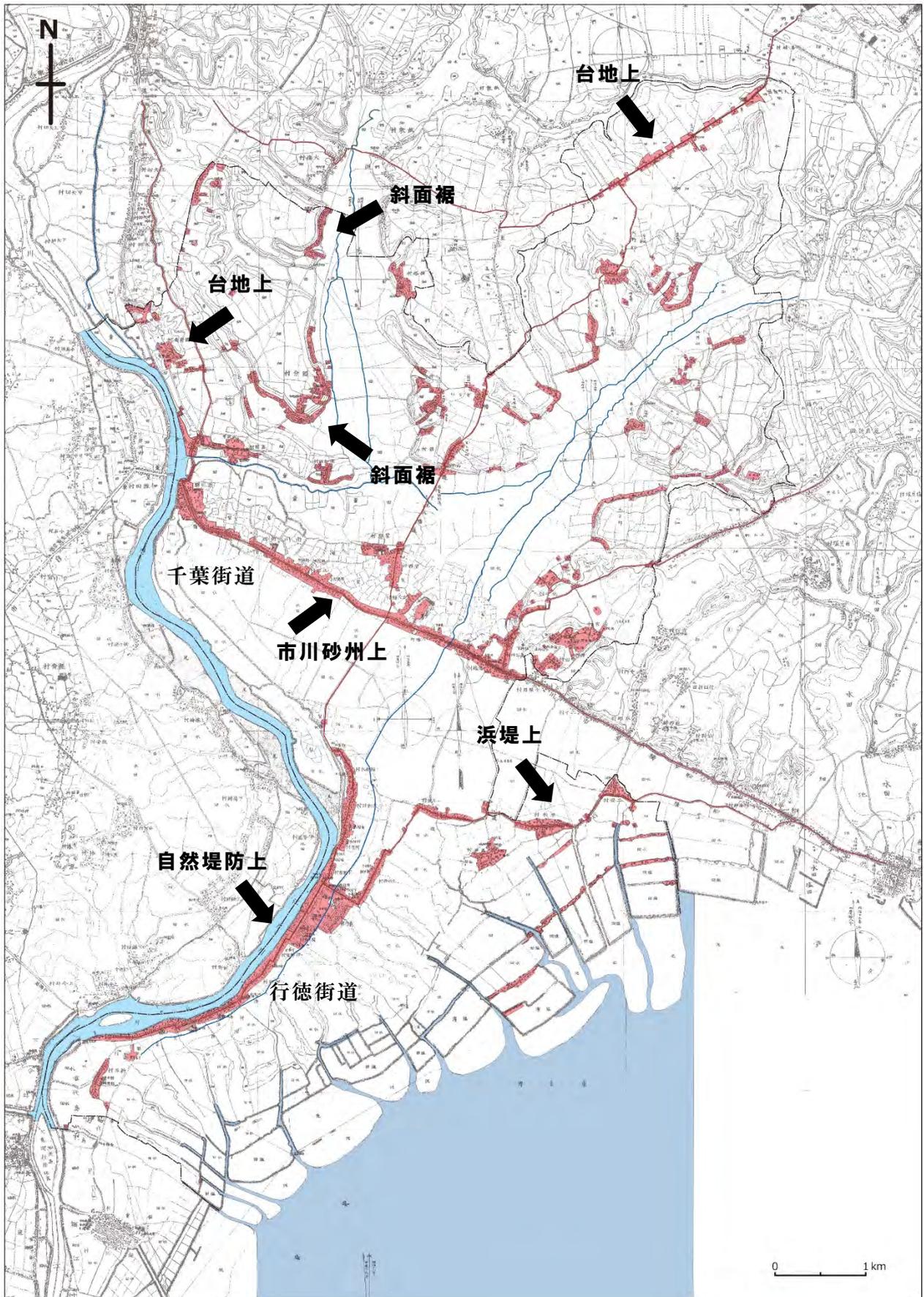


図1 1880 (明治13) 年の地形図に示された市街地 (まち) の場所
立地する場所の地形により、3つのグループに分けることができる。
台地上や斜面裾、市川砂州上、自然堤防・浜堤上の3つのグループがある。

いちかわの植物 30 年

自然博物館の 30 年あまりの活動で得られた写真を用いて
市川市域の植物を紹介します。

イヌノフグリ

オオイヌノフグリ（外来種）はよく知られていますが、イヌノフグリ（在来種）はなかなか見ることができません。生育しているところが少ない上に、花もオオイヌノフグリにくらべて小さく気づきにくいからです。博物館がまだオープンする前、準備のために市内あちこちを歩くなかで、偶然見つけました。気づいた自分をほめたいところですが、その後は生育場所の環境が変わり、姿を消したかもしれません。こちらは逆に、ほめられない話です。

堀之内貝塚の崩れた斜面に生えていました。その後、その場所は草が茂り、小さな本種には生育するのがむずかしい環境になりました。



イヌノフグリ(1995 年 4 月 4 日)
堀之内貝塚。小さな花を大きく撮る装備が
そろうのに 9 年かかりました。

ヤマハンノキ

早春に、雄花の穂（穂には小さな雄花が多数ある）を伸ばす落葉樹です。葉が展開する前に花が咲くので、写真のように、枯れ枝に芋虫がぶらさがったような変わった光景になります。

ヤマハンノキは林に生えます。雑木林でほかの木々に混じっています。以前は、下の写真を撮影した柏井町の林と、北国分の小塚山公園がよく知られていました。ただ、林の遷移が進むと残るのは厳しいみたくで、どちらの場所でも減少する方向に見えます。

近縁種のハンノキは湿地を好みます。ハンノキはいまでも長田谷津（大町公園）に林があります。植えられた株が増えてできた林です。



ヤマハンノキ(1987 年 2 月 3 日)
柏井町 2 丁目。単なる枯れ葉と、見過ごし
てしまうかもしれません。

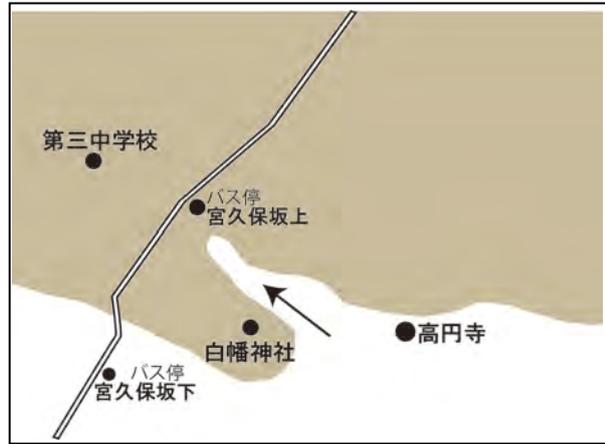


街かど自然探訪

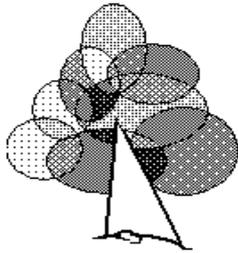
おじゃまします!

みやくぼ 宮久保・半島のような地形

宮久保の白幡神社は高台にあります。そこから、東、南、北側どちらに行っても下り坂です。右の図で、色がついている部分は台地、白い部分は低地です。←で示した部分には、小さな谷津が入っています。この谷津によって台地本体と切り離されて、半島のような地形が出来上がったのがわかります。谷の深さは、白幡神社付近では2階の屋根ほどありますが、谷奥では浅くなりバス通り付近では判らなくなります。



△白幡神社周辺の地形のようす。
色がついている部分が台地、白い部分は低地。
白線は、本八幡北口からのバス通り。



くすのきのあるバス通りから No.128

暮れに草取りをしたら

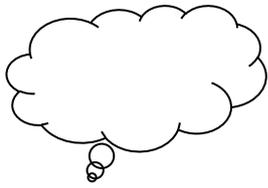
この冬は、北の低気圧が南下しないため、暖冬だそうです。1月6日、薄い氷がはりました。18日、数時間雪が降りました。「冬ならではの観光の、スキー場では雪がなく、氷瀑、氷柱、氷の上のワカサギ釣りもできないうちに春になるのか?」と言われていました。

昨年の猛暑で草取りをためらっていましたが、暮れに草やツルがやっと枯れたので、一気に片付けました。青々としているのは、シダと実生の木です。カニクサ、アジアンタム、ヤブソテツ、オオバノイノモトソウ、タチシノブ、とナンテン、マンリョウでした。元々、うちの庭になかったものなので、鳥や

風に運ばれ、根づいたようです。

大きな木になり、毎年花を咲かせているサクラとネムも、いつの間にか生えたものです。ある年、大量に増えたヒゴスミレ?に、トゲトゲのイモムシが現れ、葉を食べつくしました。園芸店でパンジーを買ってきて移し、羽化したらツマグロヒョウモンだったことがありました。ヒメツルソバやペラペラヨメナはご近所からじわじわと塀沿いに侵入しました。お屋敷や住宅が更地になり、草が生えます。そのままなら、低木や照葉樹の林になるのでしょうか。

(M. M.)



展示室

No.30

飼育生物の話題



アメンボの 飼育展示

生きたクラゲが届く予定でスペースを空けたら、夏の猛暑でクラゲ全滅との知らせが入り、展示スペースを急いで埋めることになりました。身近な生き物の飼育展示は人気があるので、何を飼おうかスタッフであれこれ考えました。身近で誰もが名前を知っていて、でも案外しかりとは見ていない生き物で、なおかつ簡単に調達できて飼いやすい、というのが条件です。たどり着いたのが、アメンボでした。

アメンボなら、長田谷津（自然観察園）に普通にいます。柄が長い網を持って、さっそく調達しました。飼育水槽のレイアウトはいろいろ試してみて、少しの植物と広い水面というセットが見やすいということになりました。植物が多いと、アメンボは隠れて泳がなくなりました。餌は死んだ昆虫を浮かべればいいので、最初は退治したハエなどを与えましたが、冬のことも考えて冷凍赤虫を使ったらうまくいきました。ちなみにイモムシを与えたら、最後、皮だけが残っていて驚きました。

想定外のことも起こりました。入れておいたポトスに産卵して、ある日、小さなアメンボが水面にたくさん浮かんでいました。生まれたばかりのアメンボって、見たことないですよ。いい展示になりましたが、力及ばず、それらを大きくすることはできませんでした。

わたしの 観察ノート

◆長田谷津より

- ・紅葉が綺麗な谷の斜面をヤマシギが歩いていました(11/24)。

稲村優一(自然博物館)

- ・キッコウハグマの白い開放花が咲いていました(11/24)。雨に打たれてはいましたが、ひさしぶりに閉鎖花ではなく開放花に出会いました。草刈りされなかったのも、よかったです。
- ・暦の制約上、小春日という表現は使えませんが、そんな感じのポカポカ陽気でした(12/20)。日差しを浴びて、越冬していたムラサキツバメは飛び回っていました。

以上 金子謙一(自然博物館)

- ・モミジにウソの群れ(5羽)が来て実を食べていました(12/21)。しばらくすると近くの水場で水を飲んでいました。

稲村優一

◆じゅん菜池緑地より

- ・公園の池でカンムリカイツブリを見たのは初めてです(12/1)。スマホで撮影できる距離にいるなんてびっくりです。
- ・自然環境ゾーンのモミジのトンネルに、いろいろな小鳥たちが来ていました(12/1)。水面に近い枝に降りたエナガは、紅葉とあいまってとてもきれいでした。写真ではなく、心に焼き付けておこうと思いました。

◆国府台緑地より

- ・国府台緑地には、コウヤボウキが群生している道があります。今年はたくさん咲いたみたいで、花殻が実になっていました(12/8)。

- ・地域の人を案内して国府台緑地と外周を歩きました(12/8)。オオタカの話をしていたら、ちょうど国府台緑地からオオタカが飛び立って、みんなの目の前で帆翔してくれました。

◆菅野2丁目より

- ・外環道路のトンネルの上を利用した公園で行事の解説をしていました(12/15)。話している視界に青空を飛ぶチョウゲンボウが目に入り、すかさずそちらの観察を行いました。チョウゲンボウにとって、外環道路は大きな川の上のような感じでしょうか？

以上 金子謙一

◆中山法華経寺より

- ・龍王池で「チー」と声がして、カワセミの雄が1羽、枯れたハスの葉柄の先に止まりました(11/13)。カルガモも5羽見られました。
- ・宇賀神堂のまわりにはヤマガラ2羽とシジュウカラ4羽の混群が見られ、ヤマガラはトベラの枝に止まり、スダジイのどんぐりを足で押さえて、音を立ててつついていました(11/13)。また、スダジイの樹皮の割れ目にどんぐりを隠す様子も見られました。
- ・聖教殿の前にはキセキレイが1羽、下りていました(11/13)。

以上 田中利彦さん(船橋市在住)

12月は降雨が多かったので「乾燥注意報」があまり出ず、冬型の気圧配置が続かないので、冷え込みが弱くて強い北風も吹かず、冬らしくありませんでした。



行事案内



おやこ自然観察会 水辺のいきもの

お申し込みが必要です。

水辺のいきものを自分たちで捕まえて観察します。
親子で楽しめる自然観察です。

- ・場 所 大町自然観察園
- ・時 間 午前10時～12時
- ・定 員 親子対象 各回とも、先着親子20組

日にち	受付開始日
5月10日(日)	4月18日(土)～

お申込み方法

受付開始日以降に

往復はがきに参加者全員の住所、氏名、年齢、電話番号、返信面に返信の宛先を明記の上、下記までお申し込みください。

〒272-0801 市川市大町 284 番地
自然博物館「〇月観察会」係まで

長田谷津 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

毎月1回、長田谷津(大町自然観察園)の四季折々の風景を楽しみます。

- ・日 時 3月7日㊥、4月4日㊥、 午前10時～11時30分
- ・集合場所 動物園券売所前 午前10時

長田谷津ボランティア

湿地の環境整備をお手伝いして下さいませんか。

(雨天中止)

- ・日 時 2月23日㊥、3月29日㊥、4月26日㊥、午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園 午前10時
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けをお手伝いして下さいませんか。

(申し込み不要・雨天中止)

- ・日 時 3月8日㊥、4月5日㊥
午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園 午前10時
- ・自家用車をご利用の場合は、博物館までお電話でお問い合わせください。

第32巻 第6号 (通巻第186号)
令和2年2月1日 発行
編集・発行/市立市川自然博物館
(市川市教育委員会生涯学習部)
〒272-0801千葉県市川市大町284番地
☎047(339)0477